



コミュニティ だより

# あけほの

平成 24 年 11 月 1 日現在	
人 口	15,406人
男	7,622人
女	7,784人
世帯数	5,376戸

# 夏まつり



第 1 回餅投げの 1 コマ



恒例の六合夏まつりが八月五日に開催されました。当日は、台風の影響で天気を心配しながらのスタートとなりましたが、なんとか最後まで無事終了する事ができました。

会場、ステージでは、児童生徒の合唱、和太鼓、吹奏楽、ダンス、民踊、体操などのアトラクションで夏まつりが一層盛り上がりしました。

各部が担当した売店も例年通り大盛況でした。ピークの際は各売店では、てんてこ舞いだったと思います。そんな中、救ってくれたのが中学生ボランティアのみなさんでした。彼等の活躍により、各ブース担当者も救われ、また夏まつりも成功したかと思えます。

ちなみに、私が担当したチケット売り場では、用意したチケットが予定より早く完売したため、再度回収し販売したほでした。

また、バザー会場も、これまで大盛況で、開場をまだかまだかと長蛇の列ができていました。開場とともに人が溢れ、まるでデパートのバーゲンセールのような様子でした。









早くお客さん  
来ないかな～



氷とけちゃう



うまく  
釣れるかな



いいのが当たるといいネ



オマケに  
一匹あげるヨ



開場はまだかなあ



ボランティアって  
楽しくていいよネ～



掘り出し物はあるかしら

ボランティアのみなさんあ  
りがとうございました。暑い  
中、大変だったと思います。  
また、バザー会場の担当者、  
各ブースの担当者の方々、お  
つかれさまでした。  
今回、ボランティアの活躍  
を主に撮らせていただきました。  
みなさんのおかげで、ス  
ムーズに何事もなくて来た  
と思います。  
来年もぜひ来てください。





# 慶祝 敬老会



六合コミュニティ委員会会長あいさつ

今年も女性部の一大イベントの敬老会が九月二十三日に開催されました。  
 今年の敬老会の該当者は一三七三名。当日は朝から激しい雨が降っていたせいもあり、その内百五十六名の方の出席となりました。  
 そんな中、近所のお爺ちゃん、お婆ちゃんたちが「おはようございます。今日はよろしくね。」「あんた久しぶりだね。」と、元気な声が体育館の中に響き渡っていました。  
 アトラクションが始まると、一緒に歌ったり手拍子をしたり、皆さんとても楽しい時間を過ごしていただきました。  
 女性部の皆さん、おつかれさまでした。  
 来年は晴れるといいですね。



記念品贈呈





# 防災訓練

平成二十四年九月一日

九月一日六合地区で防災訓練が行われました。  
震災、東南海トラフの被害予想もあり、皆さん真剣に取り組んでいました。



道悦島防災訓練



## ◆総合防災訓練について

### 道悦島自主防災会

本年の道悦総合防災訓練は、九月一日(土)に開催され、六合小学校および六合中学校の避難地を会場として全体で一一二五人と過去最高の参加者となりました。

主な訓練は次の通りです。

①無事を知らせる「黄色い旗」の掲出訓練。

この旗は、島田市から各世帯に配布されたもので、災害時に無事である安否を知らせるための目印になる旗で、今回初めて各世帯に呼びかけて掲出訓練を実施した。結果は全体の約五割(八百十三件)の世帯で旗の掲出ができた。また、この中には、災害時には一人で避難できない要援護者が六十人含まれており、「向こう三軒両となり」の手助けを必要とすることを再認識しました。

②避難経路上の注意箇所の確認及び車いすでの体験避難訓練。

防災マップが完成したので、避難訓練時に経路上の問題点、注意箇所など地区民に説明し、意識の高揚を図った。また、避難経路を車いすで実践し障害物、改善点など確認した。

③会場での訓練は、できるだけ実践に近い形の訓練を取り入れることが、災害時に生きてくるので、小学校は、家屋倒壊想定したジャッキアップ訓練、中学校はブロック塀倒壊したジャッキアップ訓練を、どちらも救助救出チーム(六名)を編成し、訓練人形を救出する実践型訓練を実施した。

④その他の訓練は、消火器による初期消火・バケツリレー・可はんポンプ操作・ろすい機操作・発電機操作・

三角巾の使い方・応急タンカの作り方・搬送の仕方・炊き出しなど例年通りでマンネリ化傾向にあるが、基本的知識を習得するために不可欠な訓練であるので本年も実施した。なお、中高生皆さんにも積極的に各種訓練に参加していただいた。

### 今後の課題

総合防災訓練は参加人数も多く全体的な防災意識は高まったが、個々の訓練において積極的な方や役員中心の訓練になりがちであるので、町内をさらに分けて行う小単位の全員参加訓練も一年に一回は必要であると痛感しました。

道悦島自主防災委員長

大石英雄







### ◆防災訓練に対する所感

今年の岸町総合防災訓練参加者は、朝の集合時で四百八十三人でした。過去四年間では平成二十一年が六百五人、平成二十二年が五百七十人、昨年在四百九十四人ですので、減少傾向となっております。

その原因としては、訓練内容が毎年同じでマンネリ化しているためと反省しており、大勢参加してくれる新しい有効な訓練を実施する必要性を痛感しました。

訓練の目的は、岸町民が来るべき大震災に備えて、「自助」「共助」の意識を高めることだと思えます。「自助」については最近の大震災や、南海トラフの巨大地震被害想定等で十分理解されていると思えます。「共助」についても岸町民の絆は今なお健在で心配ないと感じています。

そうすると、参加者数にとらわれず現在の基本的な訓練で良いのかな、それとも自主防災組織の強化の方が重要な等と思索しております。

岸町自主防災委員長

飯塚隆志

(写真は東町防災訓練の様子です。)



レクリエーション部による健康ウォーキングが九月九日(日)に、三キロメートル(道悦旭橋折り返し)と五キロメートル(蓬萊橋折り返し)コースの二班に分かれて行われました。  
三キロの参加人数十九人、五キロが四十八人でロクティを午前八時五十分頃スタートしました。残暑厳しい日でしたが世間話等リラックス気分がいい汗を流したウォーキングでした。

## 健康ウォーキング

平成二十四年九月九日





# 六 合 の ア ス リ ー ト



鈴木コーチと1対1の練習

七月三十日(月)河川敷グラウンドで、彼を見つけることができました。彼の名前は、谷中宏太郎君(東町)です。六合中学校陸上部の砲丸投げの選手です。全体練習の中でひととき目立ち、体の大きさにびっくりしました。普段、陸上の他にカラテもやっているとこの事です。鈴木コーチ(顧問)のご指導の元、重さ五キログラムの砲丸を手に取り、投法練習をしていました。この日は、東海大会、全国大会へ向けての練習とあり、かなり気合いが入っていました。

県大会で出した十三メートル三十八センチ、これが彼の自己ベストです。東海・全国大会でも優秀な成績を残し、九月二十二日の志太・榛原大会では十二メートル五十四センチの大会新記録を打ち出し優勝しました。



チームシズオカのウェアが似合っていました。

6/17日 高校総体東海大会  
日本ガイシスポーツプラザ 第2競技場

団体 優勝 全国大会出場  
個人 塩田裕亮 3位 全国大会出場

東海4県(愛知、三重、岐阜、静岡)の高校が集まり競い合い、見事優勝で全国大会出場を決める。

8/11日 高校総体全国大会  
福井会場 サンドーム福井

団体 11位 春の選抜大会の静岡県出場を決める  
個人 23位

杉浦 圭(3年) 塩田 裕亮(3年) 松浦 鷹哉(3年)  
河本 真行(3年) 名取正太郎(3年) 中嶋 潤(2年)  
杉山 優市(3年) 須田 雅大(2年)

内、六合中出身者 塩田、河本、名取、須田  
出場選手6名+補欠2名計8人のチーム中、六合地区の選手が4名、まさに地元のチームだった。

## 監督談

全国大会では、前年優勝校の後という順番で、印象が薄くなってしまったようだ。採点競技の怖さというか、本人たちはプレッシャーにも負けずよくやったが、得点が伸びなかった。



島田工業高校新体操部



# 水泳でも全国大会へ

## アスリート中のアスリート

島田樟誠高校二年生の岩本陽翠君（東町）は、水泳部に所属し活躍しています。本年度の高校総体（インターハイ）では、競泳の五十メートル自由形で県大会二位、東海大会四位となり、全国大会に出場しました。また国民体育大会（国体）には、五十メートル自由形の県代表選手として出場しました。九月に行われた、高校一・二年生対象の新人水泳選手権・静岡県大会では、五十メートル自由形で優勝、百メートル自由形で二位となり、東海大会出場が決定しました。現在二年生です。来年度も活躍が期待できます。



新人水泳選手権・静岡県大会の表彰式の様子（中央が岩本君）

# 各地のたより

## 秋祭り

十月二十日、阿知ヶ谷天満天神社祭典では奉納寄席が行われました。真打ち、古今亭菊生、前座春風亭朝呂久の落語、マギー隆司の小品に三百人を超す観客で賑わい、境内は笑いの渦に包まれました。



## 東町少年・少女相撲大会

十月八日体育の日、東町八幡神社境内特設相撲場で第二十七回東町少年・少女相撲大会が行われました。地元の小一〜六年生の「豆力士」約七十名が出場し、手に汗握る取り組みで会場を沸かせました。



# 編集後記

広報部員になって早くも半年が過ぎました。最初のうちは何をしていたのか全く分かりませんでした。が、ようやく自分の仕事が見えてきた感じになりました。各専門部が主催する事業会場に出向き、「広報部ですけど写真を撮らせてください。」と言うと、「ご苦労様です。」「好きなので撮ってください。」などと言われ、少しの嬉しさと、安堵の気持ちになります。その場で担当者から一言『コメント』が頂けたらもっと嬉しいです。これからも、各事業会場にお邪魔しますので、その時はよろしく願います。

広報部 鈴木泰弘

